

1. 被害状況（総務省消防庁7月31日7:30発表）

URL：https://www.fdma.go.jp/disaster/info/items/200731_oame44.pdf

※調査中の為、今後随時更新される予定です

2. 各地の情報共有会議（7月30日現在）

地元の団体を中心に、遠隔会議ツールなどを活用して情報共有会議が開催されています。

熊本県では、熊本地震以降、定期的で開催され続けていた「火の国会議」が、7/8以降は水害版として、当面、毎日18時開催に変更されています。

大分県は、第4回の情報共有会議が7/29に開催され、今後は毎週水曜日の19時から開催されます。

佐賀県は、第2回の情報共有会議が7/24に地元団体を中心に開催され、今後も定期的で開催されます。

福岡県は、第3回の情報共有会議が7/30に開催され、第4回は8/6に開催されます。

3. 各被災地の状況・課題について

JVOADとして、地元のネットワークとの連携や情報共有会議などから、被害状況・支援状況・課題などの全体像把握に努めています。各県の状況などは以下からご確認ください。

福岡県	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none">・大牟田市で自主避難が一部残っている。・仮設住宅への入居が開始されている。・災害ボランティアセンターは、通常ボランティアセンターでの対応等に移行する地域も出てきている。一方で大牟田市は清掃や片付け等のニーズが70件程残っている。・7/29、久留米市域での情報共有会議が開催され11団体の参加があった。主な議題は、久留米市内の団体や住民向け床下講習会の開催について。実際に集まったの会議だったが、今後は遠隔での会議参加も検討していく。・大牟田市でも市域での情報共有会議を開催する予定となっている。 <p>[支援団体の動き]</p> <ul style="list-style-type: none">・地元JCが、災害ボランティアセンターと連携して活動をしている。・地元の大学が、農家の被害について、地元JAなどに働きかけを行っている。・写真洗浄の活動をする為に、拠点の整備など準備をしている団体がある。・IT資機材やプリンターの貸し出し、電源になる電気自動車と合わせて貸し出しができる団体がある。 <p>[本日の課題]</p> <ul style="list-style-type: none">・在宅避難されている住民の方々が多くいることが予想される。・コロナ禍の状況で、ボランティアの依頼をためらっている住民の方がいる。・ボランティア活動者から新型コロナウイルスの感染者が出ないか懸念されている。・今後、農地への支援や仮設住宅への支援が必要となることが予想される。
-----	---

<p>熊本県</p>	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所は県内合計で 1500 人程。避難所以外の避難者を合わせて、3000 名以上が避難生活をしている。 ・応急仮設住宅は県内合計で 253 戸建設予定。球磨村は約 260 戸の追加設置する予定。 ・残っている孤立集落は、芦北町と球磨村の 2 地域。 ・熊本県内の新型コロナウイルス新規感染者が増加していることに伴い、感染リスクレベルをレベル 3 (5 段階中) に引き上げ、県外への不要不急の移動自粛を要請している。 <p>[支援団体の動き]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内支援団体の 90 団体ほどが被害状況調査、支援活動している。 ・リユース PC やモバイルルーター等の提供を実施している団体がある。 ・県社協と連携して物資支援を行っている団体がある。 ・災害ボランティアについての説明会を、定期的実施している団体がある。 ・拠点を設置して、物資配布を行っている団体がある。一部物資配送も実施している。 ・ペットの健康相談会を開催する予定の団体がある。片付け時などの預かりも対応している。 ・壁剥ぎや床剥ぎ等の技術系案件に対応している団体がある。 ・情報共有会議の開催は、通信環境が整えば、被災地域に近い場所で実施していく予定。 <p>[本日の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅避難をされている方々のうち、一部地域では、いまだ生活用水や飲料水を必要とされている。 ・コロナ禍の状況があるので、避難所や今後入居する仮設住宅などで、通信環境の整備が必要となる。 ・建設仮設住宅のバリアフリーの予定について、確認を実施する。
------------	---

4. 災害ボランティアセンター

- ・災害ボランティアセンターに関する情報については、全国社会福祉協議会の Web サイトにてご確認ください。 URL : <https://www.saigaivc.com/202007/>

5. 今後の JVOAD の対応について

各地で片付けなどの支援活動が積極的に行われています。被災地域のニーズの取り残しが無いよう、行政、社協、県内支援団体が連携し訪問活動(ローラー調査)を行う地域も出てきました。

熊本県では、新型コロナウイルス新規感染者が増加傾向にあり、感染リスクレベルが引き上げられる等、地元住民の方々へも不安が広がっています。そういった状況を受け、KVOAD より、「熊本県外から災害支援のために来県された団体及び今後來県予定の団体」に向けたメッセージが配信されました。https://www.kvoad.com/2020/07/27_27.html

地元からの要請により支援活動を行う場合は、健康チェックや行動記録の管理など、コロナウイルスを被災地に持ち込まない原則を守る事、また、活動予定期間や地域などの情報を火の国会議などで共有することについて言及されています。

JVOAD は、地域の意向に沿いながら、被災された地元支援組織への後方支援を継続いたします。